

成果報告書

平田昂大 (慶應義塾大学 健康マネジメント研究科 後期博士課程 1 年)

概要

- タイトル
地域住民における主体的身体活動・運動中の事故・けがの発生
～横浜市栄区セーフコミュニティ・スポーツ安全対策分科会による質問紙調査から～
- 発表形式
口述発表(オンデマンド)・チャット形式のディスカッション
- 学会
日本運動疫学会 <http://jaee.umin.jp/>
第 23 回 日本運動疫学会 学術総会 http://jaee.umin.jp/meeting_23.html
- 参加期間
2021 年 6 月 26 日~2021 年 6 月 27 日
- 開催形態
現地とオンラインのハイブリット開催

活動内容

横浜市栄区は、横浜市の南部に位置する人口 121,120 人、面積 18.55km²、高齢化率 30.8% の行政区である、横浜市の中で最も高齢化が進んでる行政区である。栄区は、まちなどが主体となって事故やけがを予防するためのプログラムを推進するセーフコミュニティという国際認証を 2013 年から取得して活動している。栄区では 8 つのテーマで分科会を設置して活動しており、その一つに「運動競技時の安全」を掲げて、データの収集や専門的評価等を行っている。申請者は 2019 年から栄区民の運動中に発生する事故・けがを調査し、その予防活動を実施している。本研究は、栄区スポーツ安全対策分科会が 2017 年に実施した質問紙調査のデータを使用して調査結果を解析、発表したものである。

日本運動疫学会は、前身となる運動疫学研究会が 1998 年に設立され、2013 年から日本運動疫学会となり、本邦における運動および身体活動と健康に関連する研究を発展させ、研究成果を社会に還元するための活動を実施している学会である。

研究成果

本研究は、栄区民が主体的に実施している身体活動・運動中に発生した有害事象の傾向を捉えることを目的とした。栄区スポーツ安全対策分科会の構成団体である栄区体育協会、栄スポーツセンター等に対して調査票を配布し、過去5年間の活動中に経験した有害事象について、各団体で身体活動・運動を実施している者を対象に聴取した。回答が得られた518件から、回答内容が不十分だった45件を除外した473件を分析対象とし、有害事象の発生情報を記述疫学的に分析した。その結果、有害事象「有」は94件（分析対象の20%）であり、けがの部位では「足・脚」が最も多く55件（有害事象の59%）であった。けがの種類では、下肢の捻挫靭帯損傷、筋・腱損傷が多く、アキレス腱断裂、前十字靭帯損傷、頭蓋骨骨折、大腿骨骨折、脳出血といった重大な有害事象が発生していた。

本研究の結果から、限定的な情報ではあるが、地域住民が主体的に実施している身体活動・運動中に発生している事故・けがの傾向が明らかとなった。

研究成果の活用(今後の展望)

本研究から、横浜市栄区において地域住民が主体的に集まって実施している身体活動・運動中に有害事象・ヒヤリハットが発生していることが明らかとなった。本研究の限界として、調査対象の実施競技や年齢等に偏りがある点、過去5年間について聴取しているため思い出しバイアスの影響がある点、運動実施者数と活動頻度が不明なため、発生率が不明な点がある。したがって、運動実施者の属性と有害事象・ヒヤリハットの関係や有害事象・ヒヤリハットの発生率の解明が今後の研究課題である。

本研究で得られた知見から、重大な有害事象が発生した際の対応計画の作成を提案した(図1)。



図1. 緊急時対応計画